

令和5年 第1回奈井江町総合教育会議議事録(第1日)

招 集 年 月 日	令和5年11月28日		招 集 場 所	委員会会議室			
開 会 日 時	開 会	令和5年12月19日	午前 8 時 54 分				
閉 会 日 時	閉 会	令和5年12月19日	午前 10 時 56 分				
出 席 者	町 長	三 本 英 司	○	委 員	林 知 孝	×	
	副 町 長	碓 井 直 樹	○	委 員	三 原 新	○	
	出席6名	教 育 長	相 澤 公	○	委 員	矢 萩 優 子	○
	欠席1名	職務代理者	堀 美 鈴	○			
議 事 出 席 職 員	参 事	松 本 正 志	文 化 振 興 係	振 興 長	高 田 基		
	教 育 支 援 係	井 上 圭 世					
	文 化 振 興 主 幹	大 久 保 雅 子					
会 議 に 付 し た 議 事 案 件	号 数	件 名				可否区分	
	報告第1号	令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について				承認	
	意見交換	令和6年度教育行政(案)				-	
	意見交換	スクールカウンセラー活用事業実績等について				-	

令和5年 第1回奈井江町総合教育会議議事録

	<p>1. 開会 8:54</p>
<p>松本参事</p>	<p>おはようございます。林教育委員は都合により欠席となりますが、参加予定の方がお集りになりましたので、只今から令和5年第1回の奈井江町総合教育会議を開催いたします。町長には、挨拶以降、進行をお願いします。</p>
<p>三本町長</p>	<p>2. 町長挨拶</p> <p>おはようございます。今、各町の首長さんの行事予定を見ていますと、この時期に、多くの町において総合教育会議を行っているようです。会議は、年に複数回となる時もありますが、教育委員の皆さんと行政課題や教育行政課題を共有するという意味で大切な会議であると思っています。本日はどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>まず皆さんには、除雪等のことをお知らせいたしますが、昨日が1日で40cmの降雪となり、今現在の降雪量は、11月の分も含めると昨日現在で2m4cmとなっています。去年が2m69cmですので去年よりは70cm近く少ない状況です。雪の降り方がここ3年位前と比較して、変わってきていると感じています。昔だと12月に入っても、雪が無いことが結構ありました。また、今年の夏は、酷暑ということもあり、子どもたちにとって大変つらい思いをさせました。今年、つくづく思うのは、大変という表現が良いのかわかりませんが、すごい年であったと思っています。気象や気候が非常に大きく変動しているということでもあります。そして世界経済を見た時に、世界で紛争が起きるといふ事が、私たちの生活に様々な面で大きな影響があることを痛感させられました。また、紛争はウクライナのみならず、中東でも発生しています。様々な要因により、世界中で瞬く間に影響が広がっています。看過していけないのは、日々食ふこと、生きることすら真剣に考えられない、子どもたちや人々が沢山いるということ。このことに思いを寄せながら本会議では、奈井江町の子どもたちに何を、そして子どもたちだけではなく、大人の人たちの社会教育として、何を提供していくのか、という議論をしていただきたいと改めて思ひます。忌憚のない、そして実のある会議にしていきなさいと思ひますので、本日はどうぞよろしくお願ひします。</p>
<p>三本町長</p>	<p>次第3番「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>井上係長</p>	<p>3. 報告</p> <p>議案1ページをお開き願ひます。</p> <p>今年4月18日火曜日、小学校と中学校の国語と算数、中学校で国語数学英語について実施された結果になります。今年度から中学校の英語の話すこと調査に関しましては、1人1台端末を使い「実際に話す」ということを、別日の5月15日に行っています。</p> <p>結果としましては、表にある通りですが、実際に全国全体の平均に比べて少し下がっている状態です。小学校では、全道と比べて1ポイント高いような結果も出ていますが、全体的に全道との比較で低い状況は続いています。</p>

井上係長	<p>2 ページは中学校の結果です。こちらについては、小学校と比べて、さらに低い状況となっていますが、学年により人も変わるものですから、この結果が一概に町全体が低いという判断できるものではありません。この学年において、若干ポイントが強く出ているかなと思っているところです。ただ、一番下にある「話すこと調査」の評価につきましても、全国と比べて大差がない結果となっています。実際に「話すこと調査」のポイントが 12.4% であり、全国的に見ても実際に話すことができていない状況で、英語の話すための教育について課題もあると感じています。</p> <p>3 ページになりますが、ポイントを図にしたものです。小学校は、一箇所、国語の「書くこと」のポイントが落ち込んでいますが、全体的に全道に近い数値となっています。中学校は、かなり低い位置でデコボコしている状況です。ここは大きな課題があると感じています。当町の学力向上策として、一番下に記載している小中学校で統一した学習規律の徹底。習熟度に応じた指導の充実。公設塾との連携により家庭学習習慣の確立や、自主学習のサポートを行う。このほか学ぶことの楽しさを感じられるような環境を作っていくということです。あと、タブレット端末の活用に向けた授業改善や、今年度から本格導入をしている A I 教材の Qubena を使った、個別最適な学びを今以上に進めていく取り組みを行っています。全国学力・学習状況調査の結果は、12 月 1 日付の広報で特集記事として掲載しています。本日、資料としてお配りしていますが、全道と比べての分析を掲載しています。小学校においては、全道平均と比べて高いか同じ位が多いですが、中学校においては数学の部分で下回る傾向が大きいことを掲載しています。「質問紙による傾向」では、小中学校ともに、「読書の時間」や「新聞を読んでいる」という傾向が全道よりも高めになっています。日頃取り組んでいる読書推進の結果だと思いますが、これが実際に成績には結びついていないということが、実態として見えてきています。</p> <p>このほか、「朝食を食べない」という回答も相変わらず多い状況です。引き続き、家庭に向けて、規則正しい生活の声掛けを行う必要性を感じています。3 ページの一番下、「I C T 機器の活用について」は、奈井江町は積極的な活用に向けて取り組みを行っていますので、全道を大きく上回っている数値が出ています。しかし、この反面として、生活習慣の乱れという事がどうしても出てきますので、家庭でのルール作りやより効果的な活用について今一度検討する必要があると思っています。</p> <p>資料 4 ページの「家庭への切なる思いお願い」では、昨年度から保護者に向けて「お願いしたいこと」として、強く広報をしています。今年の記事においても、子どもと保護者に対し強く呼びかけるような内容で広報をしています。それに合わせて、「行政の取り組み」では、引き続き、公設塾「ななかま」の中で色々サポートをしていることや、長期休業中の「朝カツ!」、A I 教材「Qubena」を導入したこと。このほか、長期休業前年 2 回、親学セミナーを開催し、保護者の意識改革に取り組んでいるのですが、実際、参加者が集まらないことがあり、課題があると感じています。</p>
------	---

	<p>「地域全体で考える」では、今年度からコミュニティスクールが発足し、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に積極的に取組み、特色ある学校づくりを進めているところです。</p> <p>そして、「町長と語る会」の記事も掲載されていまして、参考までに添付しています。</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果報告については、以上になります。</p>
三本町長	<p>ありがとうございます。これについては、皆さん既に教育委員会の中で議論されていると思いますが、改めて、この会議においても意見交換をさせてもらえればと思います。</p> <p>昨年もみなさんに聞きましたが、少しずつでも状況は改善されているようにも思います。例えば、公設塾「ななかま」の活動も含めて、奈井江町の教育は、自分たちで考える力、自分たちで行動する力を養いたいということで、学力の向上という大きなベースはありますが、この学力調査結果が出て、私たちの取組み結果が、実際のこの数字に現れるものではないかもしれませんが、奈井江町が進めていることの成果が、表に現れてきていることや、あるいは、皆さんが何か感じ取っていることがあれば、教えて欲しいと思います。</p> <p>子どもたちが元気で何かに取り組むことが、数字やデータとして現れるということではなく、以前より色々なことへの探求心が感じられるなど、聞かせていただきたい。</p>
三原委員	<p>子供会等でもそこを引き出すように頑張っている最中で、考える力、行動する力を蓄えているところです。学力状況調査の数字的結果にはでてこないのですが、現代社会の中で、そうした力が出せる、そこを目指していると思っています。その歩みは間違っていないということを、毎年確認しながら進めていきたいという思いがあります。</p>
矢萩委員	<p>中学校の参観日とか研究大会で、授業を見させていただくのですが、高学年になればなるほど、授業中おとなしと感じています。多分、分からないこともあると思うのですが、気軽に質問ができていない。でも、小学校を見ていると、質問がされていて、授業中とても活発な感じが見られます。やはり大人になればなるほど、受動的な授業になっていいると感じます。小学校の方が、とても自発的に、何でも質問したり、分からないところは分からない、こういうことをしたいと、言える子どもが多いと感じます。</p> <p>「ななかま」で色々なことにチャレンジしている効果なのかと感じていますが、これを継続していけば、中学校に進学した時に、家庭での学習や何かやりたいというような、興味を持つということに繋がっていき、結果、学力向上にも繋がっていくのではないかと期待しています。</p>
堀委員	<p>毎年、私たちはこの結果について、昨年と比べて大人の目線で議論しますが、実際に子どもたちは意識しているのでしょうか。この結果から目標をどうするとか、そのような意識になっていないと思います。</p>
三本町長	<p>切り口は違うかもしれませんが、私が町長になって、「町長と語る会」を毎年開催してきて、間違いなく、最初のころから少しずつ変わってきていると感じます。</p>

三本町長	<p>例えば、奈井江をどのようにPRしていこうかとした時に、以前は、過去の先生方の取り組みをベースにしていることもあるのかもしれないですが、「奈井江町の特産品は、ゆめぴりか、トマト、メロンです」というところまでしか気付いていなかった。しかし、この気付きのウイングがずいぶんと広がっていて、子どもたちの成長があると思っています。</p> <p>例えば、昆虫一つ見たときに、昆虫っていっぱいいるのだね。トンボもハエもカブトムシもっていうふうにして、色んな種類の昆虫がいるのだねというように。そして、どんな昆虫が奈井江にいるのだろうと広がっていく。トンボにも色々な種類がいて、足が6本あるとか。今のところだけで意識するのではなくて、先に何か面白いことがあるかもしれないという、好奇心や探求心が未来に繋がっていく、それが子どもたちだと思います。そこをどのように弾けさせていくか、もう一歩先、面白って思わせることを私たちが提供していくことなのかな、と今聞いていて思いました。</p> <p>そして、私の感想ですが、毎年毎年、奈井江の中学生の発信力がとても上がっていることがすごく嬉しく思っています。</p>
碓井副町長	<p>皆さん、色々なことを感じていると思います。議案3ページの中学校の分析の中でも、「生徒自ら学級やグループで課題を設定し」の評価で、ある程度成果が出てくるのではないかと思います。先ほど矢萩委員が述べたように、小学校の時は元気なだけで、だんだん大人になるにつれてすごくおとなしくなってくるというところが、もしかすると奈井江町だけではないように思います。少し余談になりますが、公務員試験の採用試験をした時、性格診断も行うのですが、偶然に公務員を志望する子だけなのか、受験者の殆どが「内向的」という性格分析が出ます。社会全体がそのような風になっているということも一つあるように思います。しかし、今言われる通り、うちの場合、そうした分析があり、語る会や「ななかま」の影響が、今後、どのように出てくるかということ。自ら発信する力が、奈井江町の子ども達に定着していけば、おのずと大人になるにつれて、他の町と差別化できるものがあるのかもしれないと思っています。</p>
三本町長	<p>最後に、「ななかま」や、今私たちが目指している「創造的な力」だとか、今は「エネルギーを蓄えるため」ということで、学力だけにこだわらない、というようなことで取り組んでいます。それらを保護者とか、教育関係者の人たちはどのように受け止めているのだろうということは、何か知っていますか。</p> <p>後ほど、皆さんと議論させていただきたいと思っているのですが、他の町に比べると、奈井江町はこういうところが良い、と言ってくれる方がいるのですが、住んでみて、外面は綺麗だけど、中に入ったそうでもなかったとか、逆に外からはそう見えないが、中に入ったらすごく綺麗だったとか、そのような視点で考えたいと思っています。保護者や教育関係者の方が理解してくれて、初めて外へ発信する力になると思っています。</p>
三原委員	<p>確かに「ななかま」の取り組みは、とても良いという声を聞きます。町外の友達からも、評判を聞いているよ、という声も聞きます。</p>

三原委員	ただ、自分の個人的な思いとしては、「数字」である程度結果を出した上でのことだと思えます。ここは、こだわらなきゃいけないのかなと僕は思っています。見栄えはあまりよくないと感じています
矢萩委員	まだ始めてまだ何年かしか経ってないので、その効果が出始めるのは、ある程度年数が必要だと思えます。その子たちが高学年になって、中学校に上がって高校に行って、初めてそのときの経験が活きてくると思えます。三原委員が言ったように、「数字」は確かに大事だと思うのですが、それはもう少し経たないと現れない気がします。私的には、もう少し長い目で見られるといいなとは思いますが、継続も大切だと思えます。
三原委員	だとしたら、目標の設定は必要だと思えます。じゃないと何も言えないと思えます。
矢萩委員	目標とは、例えばどのような。
三原委員	例えば、3年後に全道平均を上回っていますとか、全国1位になっていますとか、目標と結果がないと、この数字では何も言えないと思っていました。
三本町長	<p>さっき職員の採用試験の話題が出ましたが、最近つくづく思うのですが、基礎学力の部分で、公務員を志望する人がとても少なくなってきたものから、1次試験の合格点も下げざるを得なくなっています。そうすると、過去において、例えば、60点で採用していた人たちが、今は50点や40点で採用せざるを得ない。40点で採用するしかないとしたときに、やっぱり仕事の仕方、いろんな事に対する関心だとか含めて、やはりある程度の基礎学力は必要だとつくづく感じます。そういう意味では、私も、「ななかま」をせっかくやるのだったら、三原委員がいうように、基礎学力の部分は大切だと思えます。職員の質という言い方は変ですけども、「考える力」だといったものは、ある程度基礎学力というか、要は国語力だとか、数学もそうですけど、考える力、読み解く力、そして、数学の解析する力というのも、やはり基礎学力がしっかりしていないと、結局、町民へ還元することになってくるので、最近、本当に感じます。学校の先生との関係、関わりということもあるのかとも思いますが。</p> <p>あと、このことに関して何かありますか。事務局の方から何かこの際だからなんか思っていることがあれば発言してください。</p>
井上係長	<p>「ななかま」の運営に関しては、学校の先生と月に1回ワーキンググループというような形で情報共有しながら、アドバイスをいただいたり、お互いの方向性を確認し合いながら修正したりだとか、学校とどういう連携ができるかという協議をしながら進めています。とはいいいながら、実際「ななかま」に通塾してきている児童は、全員とはいいいませんが、保護者さんの意識も高かったり、本人もそもそも勉強が好きの子がやっぱり多いように感じます。</p> <p>「ななかま」開設の最初の思いとして、学習習慣の定着や基礎学力を着けることで、勉強が楽しくなり、成績の下位層や中間層の子が自然と底上げできれば、と思っていたのですが、なかなかそうはなっていないという実態が今3年目にきて、課題とは思っています。学校の先生も、通ってほしい子が通ってくれていないということ、どのように声かけしたらいいのかなって思</p>

	<p>いながら、でも本当に底上げするためには、本来は学校でやらなきゃいけないことなのだ、ということも思ってくれています。まず、「ななかま」に通いたって思わせるだけの基礎学力を、学校で身につけさせるためにどうしようとか、いろんな取り組みを考えようとしているようです。「ななかま」を開設してから、長期休業中の朝活事業の充実も頑張っていますので、「ななかま」には通ってこないけれども、長期休業中は毎日暇だからとりあえず朝活は行こうということで、参加率が上がるので、そこで、少し勉強って楽しいんだとか、ちょっとわかったからちょっとやってみようかな、みたいな。そういう積み重ねをしながら、少しでも勉強が楽しいと思えるようなところを今一生懸命蓄積しようかなと思っています。そこが、三原委員が言うように、結果がもっと上がればいいのですが、そこは今小学生を対象としているので、なかなかそこが数値として見えてこない。これが中学生に対してとなると、成績に直結してくるので、もしかすると、成績は上がって、結果として見え易くなるのかもしれませんが。ただ、見える数字だけが大切かということ</p>
井上係長	<p>私としては、第一に目指すところではないというか、本当にジレンマを抱えていますし、課題だと思っています。</p>
三本町長	<p>どうやって食いつかせるかということも課題ですね。</p>
井上係長	<p>そうですね。あと、「ななかま」への意識も、私たち教育委員会は勉強をする場所、そこで学びに対して積極的になって欲しいという思いだったりするのですが、通塾している家庭にとっては、放課後預かってくれる居場所というような感覚であったり、思いの違いはあるように思います。とはいっても、それはそれで、通ってきてくれる子どもたちに、「ななかま」の講師たちが関わることで、学ぶことが楽しくなったり、違う角度から積極的に声かけをしてくれているので、「ななかま」で過ごす時間を少しでも有意義なものにできるよう、講師たちも必死に取り組んでくれています。</p>
三本町長	<p>ナイチンゲールやガンジーといった、偉大な人物を目指して、こういう大人になりなさい。とか、昔で言う「偉くなる」ためには勉強が必要だとか。例えば、お父さんのように立派な仕事をできるようになるためには、勉強しなきゃとか、そういうことを、私たちの時は目標にしたりしていましたが、そういう考え方は、今の子どもたちには合わないのかな。何のために勉強するのかということ、気づかせてあげたいと思うのだけど、古いのでしょうか。</p>
堀委員	<p>今の子どもたち将来の夢というと、今の中で想像できるもの、例えばサッカー選手だったり、ユーチューバーだったり、そういう夢が多いですね。</p>
三本町長	<p>お父さんがお医者さんで、お父さんのような立派なお医者さんになりたいとか、お父さんが先生だから、私も先生になりたい、ということでもいいと思っています。そういう動機づけといったことは、今はないのでしょうか。堀委員が言われたように、今みんな、大谷翔平のようにになりたいとか、マスコミで騒がれたらユーチューバーになりたいとかそういうことなのでしょうか。学力に対する動機付けが、お父さんみたいになりたい、だから勉強しようとか。</p>

堀委員	昔の子どもたちより、今の子どもたちは色々な経験ができます。私たちのころとは比べ物にならないほどだと思います。「ななかま」もそうですが、周りの大人が環境を整えることに頑張っているのに、どうして、結果はついてこないのでしょうか。
三本町長	なかなか課題として切りがないですね。やはり、動機づけや何かやろうってことが大切だと思いますし、まず入り口に入ってみる、入ってみて初めて向上心が出てくる。そこが大切なのかなと思いましたので、考えてみてください
三原委員	私も昔、学習塾で働いていて、担当が数学だったのですが、興味を引くように、さっきの仕事の話のように、そういうイメージで授業はするのですが、実際に、子どもの向上心があるのは、数字で結果が出たときです。頑張った分の結果が出たとき。誰かに勝ったとき。勝負に勝ったとき、そこで楽しくなる。そこから興味が湧いてくる、その順番の方が僕は多かったです。競い合うっていうことが、今少ないのかなと思います。
三本町長	競い合うこと自体がだめというような風潮もありますしね。私も、三原委員と同じようなことを自分自身の人生がそういう形の中で作り上げられている人間なので、すごく納得してしまいました。何がいいかは別にして、まずどうやって食いつかせるか、そしてその後、どうやってそれを伸ばすかっていうことなのかなと、今日お話の中で感じましたので、そのような方向で、進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
三本町長	それでは次第4番意見交換ということで、「令和6年度教育行政（案）」についてお願いします。
井上係長	<p>4. 意見交換_令和6年度教育行政（案）</p> <p>議案4ページ目以降になりますけど、来年度に向けて教育行政として内容を拡充したり新規だったりした部分についてピックアップして説明いたします。</p> <p>まず議案7ページです。教育支援係といたしましては、⑦のR6 予定に黒丸が書いてあるところ、「中学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒等の悩みや不安に努めます」の項目ですが、資料もつけさせていただいておりますが、実際ここ数年ですね不登校生徒の数が増加傾向となっており、それに対する対応といたしまして、今大体月にならずとスクールカウンセラーの配置が1.5回ぐらいとなっていて、これは、北海道の補助金を活用しています。相談件数が増加している現状も踏まえると、月に1～2回という形になってくると相談したいときにできないということもあり、これを週に1回程度配置できるよう、事業を拡充したいということで、予算を計上しているところであります。</p> <p>次8ページ目に行きますけれども、④番ですね。実際今、第2子の半額と第3子は無償化している給食費に対して、給食を完全無償化しますっていうふうなところで予算を拡充計上しているところであります。こちらについては皆さんのご意見を聞きながらと思っていますし、これからも町民の皆さんの意見も聞きながらということもあるかと思っています。</p>

	<p>そして続きまして9ページになりますけれども、読書活動に対する推進計画を来年度から作成する予定でありますので、そちらに向けた事業の拡大を行っていくという事で予算計上をしているところです。</p> <p>拡充・新規事業の箇所について説明させていただきました。よろしくお願いいたします。</p>
三本町長	<p>それでは、今、令和6年度の教育行政の中に新たな拡充事業等について説明がありました。</p> <p>スクールカウンセラーの配置、全国では完全に各学校1人ずつ配置しているような先進的な部分もあれば、ここら辺で言えば、空知全体で何人といったような配置もあるように思います。まさに今から不登校児童生徒への、ケアをしっかりしていく必要があると思います。</p> <p>2番目給食の無償化ついてですけれども、完全無償化となるとプラスどのくらいの負担がでてくることになりますか。</p>
井上係長	9,000千円位になります。
三本町長	増嵩分が9,000千円ということですね。わかりました。
三本町長	それでは次に、ブックサードについて少し説明をお願いします。
大久保主幹	ブックサードについては、今現在配布しているものを、3冊に増やし、子どものために選んであげるといった環境を作ることによってコミュニケーション読書への関心の高まりを期待しています。3冊の本は6冊の本の中からお母さん達に選んでもらうよう考えています。
三本町長	ブックファーストを始めて何年経ちましたか。
大久保主幹	平成21年ぐらいから始めていますので、15年ぐらいだと思います。
三本町長	成果をどのように感じていますか。
大久保主幹	今年、読書推進に関するアンケートを行った結果、未就学児に対して、読み聞かせがなかなか行えていないという結果がありました。理由としては、必要だと思っはいるが、なかなか時間が取れない。最近の共働き傾向がそうさせていると考えはしたのですが、なかなか読み聞かせの環境になっていないところが強かったと思います。やはり幼少期から環境づくりが大切だと思いますので、ブロックスタートからの環境を整備していきたいと考えています。
三本町長	ブックサードは何歳が対象でしたか。
大久保主幹	ブックサードは小学校入学前直前になります。司書が、子どもたちにブックトークという手法で本の紹介をしまして、その中から子どもたちが自分で本を選ぶ。そして、その本を自分で読み、小学校への文字への関心が高まる頃かと思っておりますので、小学校への授業で繋げていけたらと考えています。
三本町長	子どもの学力向上も含めて、まさにこれがメスになるころだと思っています。ブックスタート、ブックセカンドの取り組みが、結局、読み聞かせる時間がないということで終わってしまっているということがすごく悲しいしことだと思っています。今度サードをやっいてこうとうことで、子どもたちが自分で読む力があるからって言ってサードなのか、スタート、セカンドをど

	う伝えていくのか、というような議論はしてみたのですか。
大久保主幹	教育委員会の中では、そこまでの議論はしていませんが、今読書推進計画の策定準備をしております、これから社会教育委員会に諮った後に、教育委員会に諮ろうという計画をしているところです。その中で、やはり子どもたちへの読書推進が重要ということで、力を入れていきたいというところがあります。その中で、図書館に来てもらうということが大事だと思ひまして、図書館に行きづらい理由として、静かにしなきゃいけないとか、本を汚してしまうのが心配など、いろんな意見がありましたので、その中で図書館にキッズデーを設けて、子どもたちが来ても大丈夫だよ、うるさくしても大丈夫だよ、という環境を整えていきたいと考えています。ただ、一般の利用者さんもいるものですから、一般の利用者さんには、キッズデーのことを周知し、理解してもらうようなことを盛り込んだ計画を、社会教育委員さんに議論してもらうよう準備をしているところです。
三本町長	とてもいいことだと思うし、その通りだなと思うのですが、まさに子どもたちに読書を進めるというか、本を読む力を養ってもらいたいということは
三本町長	絶対的にあるのだけれど、そのために学校図書室の充実だとかってということにも取り組みもして、ブックスタート全体を通して、その手法1つ1つをやるだけではなくて、全体を通してもう1回見たときに、この手法がいいのか、逆に、もっと身近にある絵本や図書の充実が必要ということであれば、小学校の図書室に司書を置いてということの方が、もしかすると読む機会が増えるのかもしれないという議論と、今回のこのブックサードというやり方と、両方やったとしても並列ではなくて、どちらかを重点的にやるということだとか、そういう議論はされているのでしょうか。
大久保主幹	そこは、私自身が計画の中に盛り込んだという状況で、また議論には至っていません。小中学校へのアンケート結果を見ると、本が好きかという質問に対して、小学生から中学生へと年齢を追うごとに少なくなっています。学校の図書室を利用したことがあるかという質問に対しても、年齢とともに少なくなるという傾向が見られました。小学生になり、学年も上がると、どんどん世界が広がってきて、図書室から遠のくということもあると思います。あと、アンケートには出てきてはいませんが、「ななかま」をやっていることによって、図書館に来る子どもたちが増えています。授業の合間に図書館にやってくるのですが、真剣に本を読むというまではいきませんが、足を運ぶきっかけにはなっていて、本に触れる機会も増えていると感じています。また、一番身近に本があるという環境が大切だと思ひますので、小中学校における学校の図書室の整備も、ブックスタートと同時に、推進していきたいと考えています。
三本町長	文字離れということもありますね。堀委員さんは、読書会のメンバーでもあります、どう感じていますか。
堀委員	まず本を読むということは大変なことです。時間が必要となります。
三本町長	この間、教育の明日を考える集いで、講師の先生が、毎日子どもに野菜の本を読んでいるという話をしていました。そういうところから空気を作るこ

	<p>とだってあると思います。1つ1つの政策は、とても素晴らしいことなのですが、切り口を1つに絞って行うのか、広くウイングを広げているんなことやってみるとか、正直いうと、そこの正解が見えないなと思っています。どうやって読書に興味を持たせるのかということを考えながら、読書の習慣づけをどのように担保していくのか、ここで結論を出すことではありませんが、この政策をやることで、読書をどう習慣づけできるかということでは何かご意見ありますか。</p>
矢萩委員	<p>私は最近、活字を見ると頭が痛くなってしまったりするので、月10冊ぐらい耳読をしています。子どもたちは、活字離れをしているので、何冊読んだらポイントを付けるとか、シールとかスタンプを押してもらえるとか、さらに感想文を書いたら、さらにというような、自分も小学校の頃にそういうことで本を読んだという記憶があります。子どもたちも目標があると読書に取り組むのではないかと思います。</p>
三原委員	<p>これは、子どもに直接アプローチをする作戦ということで、これは家庭環境というか家庭の文化がとても影響すると思いますので、難しいなと感じて</p>
三原委員	<p>います。</p>
三本町長	<p>本好きということで、副町長はどうですか。</p>
碓井副町長	<p>さっき三原さんが話していた学力の競い合いということにも関わりがあると思うのですが、同じクラスとか仲の良い友達とかと、こういう本を読んでいるよだとか、そこから派生をして、あの子がああいう本を読んでいるから読んでみようとか、そういった広がりにはできないものかなと思ったりします。これはまたちょっと話がそれますが、採用試験で履歴書に趣味が読書と記載されているので、どのようなものと質問してみると、アニメということがありました。まさに時代なのだと思います。子どもたちの中では、読書というものに分類はなくて、「本」という考え方しかないのだなと。もちろんアニメがだめだって言っているわけじゃありません。捉え方が変わってきているということなのだと思います。なので、小さいときから地道に色々なタイミングで対策をしていく、小さい時は保護者、小学校や中学校の時はその時のアプローチの仕方が大切なのだと思います。さっき話もでていましたが、子ども達に時間がないということも、携帯やインターネットを見たりする時間は取れると思いますので、本当の意味で時間ないということなのかも思います。結局、自ら読もうとするきっかけが必要なのだと思います。きっかけという意味では、学校との関わりも出てくるかもしれない。矢萩委員が言われたように、誘導させるというか、そういうこともありなのかもしれませんが、何が良いかとなるとわからないですね。</p>
三本町長	<p>結局、正解はないということですね。</p>
堀委員	<p>うちの娘が帰郷して来る時、たくさん本を持ち帰ってきて、びっちり本を読んでいます。しかし、うちの孫はひとつも本読みません。先ほど、三原委員が、親とか家庭の影響もあるという発言もありましたが、関係ないと思います。親もそうだから子どももいっしょということではないと思います。親子であっても、子どもはあくまで個です。そこを、親が子どもにいっしょの</p>

	ものを望もうとすると欲求不満になってしまうのだと思います。
矢萩委員	もうそれは本当に思います。私たちの昭和の考えはもう全く通用しないのでしょうか。今の子どもたちは、生まれてきた時から、色々なものがありますし、職業も色々多様化されている。なので、私たちの考えを押し付けると全然通用しない。私たち大人もアップグレードが必要だと感じます。
堀委員	今の子どもたちは、例えば、掛け算とか基礎基本ができていなくても、困らないのかもしれませんが。今はある程度のことはパソコンがやってくれますから。
矢萩委員	創造的なことは人間しかできませんが、事務的な作業は、機械に取って代わられる時代になっています。
三本町長	高田係長は、比較的若い世代だけど、本は読みますか。
高田係長	読まないですね。
三本町長	小さいときはどうですか。
高田係長	小さいときは、本与えていたら、本をずっと読んでいたそうです。絵本や読み物タイプの本も、与えていたら静かに黙って読んでいて、手がかからな
高田係長	かったようです。ただ、だんだん大きくなるにつれて、読書はほとんどしなくなってしまうました。
三本町長	今、堀委員や矢萩委員の発言はとても面白というか、大変なことだなんて思って聞いていました。先ほどまでの議論は、文字離れが進んでいるのをどうやって興味を持たせるかということでしたが、実はそうではなくて、私達が進めるべきことは読書推進ではなくて、スマホだとかタブレットだとかを与え、それに対するソフトなどを提供して、違う思考回路を子どもたちに与えることの方がこれからは必要なのだということを提起されているとしたら、極論を言うと、教育予算の考え方を変えなきゃいけないということにもなる。さきほど、矢萩委員が、さっき自分で本は読まない耳読という話をしていましたが、僕は大変失礼だけど、やはり読むというとは、これを読んでいる人が、文字を読むことによって、この発信している人のことを想像する力がつくと考えるので、やっぱり読むということは、とても大切だと私は思っています。そんなことも含めたときに、インターネットだとか、色々な媒体が増えているときに、担当として、全てできればいいのですが、力を入れるとしたらどこなのか、という判断がでてくると思います。
矢萩委員	私も、子どもの頃は、読むことが大切だとは思っています。
堀委員	読むということは、読解力につながります。結局、小中学校の試験は、問題を読まなければならない。正確に理解できないと答えられないのですから、読む力がなければ、成績が下がっていく、勉強のペースが上がらない、意欲も湧かないということになってしまうと思います。そして、それは結果、読解力だけではなく、その先の書く力にもつながっていくと思います。英語教育も大切ですが、母国語も根底になくてはいけません。
三本町長	重点をどこにおくかということですね。あっちが良いといえばあっち、こっちが良いといえばこっち、といった教育行政とはなりませんので、そういう

	ことで、皆さんのご意見を伺ったところです。ありがとうございました。
三本町長	話があっちこっちいってすみません。スクールカウンセラーの活用状況についての議論に入りたいと思います。活用状況はやはり増えているということですか。
井上係長	はい。コロナの時期は、学校も休校になったりということもあり、件数は少なかったのですが、ここ数年相談件数は増えています。実際、去年の実績でいくと、中学生全体で15件、小学校で2件と相談件数も伸びている状況です。長期欠席の児童数も軒並み増えているってこともありまして、カウンセラーの配置日を増やしてほしいという学校からの要望もでています。
三本町長	スクールカウンセラーについて、皆さん何かあります。素朴な質問ですが、スクールカウンセラーをやってらっしゃる方は学校の先生のOBとかなのでしょうか。
井上係長	いえ、専門の知識資格を持った方が配置されています。ただ、カウンセリングということで、その方の人間性ということも大きく影響しますので、子どもや保護者の方の気持ちに、しっかりと寄り添っていただいて、信頼関係を築ける方である必要もあります。北海道の補助を活用すると、北海道から
井上係長	配置がされることになりましたが、実際には中学校の教頭先生の伝手で見つけてもらったところもあります。ただ、全国的に不登校も増えていて、スクールカウンセラーの配置を増やすという動きもありますが、人材確保の課題もあります。今来ていただいている方も遠くから来ていただいているので、来年度回数を増やしたいとしたときに可能かでしょうか、学校を通して打診はしていますが、できる範囲で対応してもらえそうな感触はもっています。
三本町長	意見ありませんか。
堀委員	スクールカウンセラーの先生もそうですし、ななかまの講師についても、安定して配置ができたらいと思います。次々に代わってしまうと不安です。安定雇用ができれば、子どもたちも落ち着くと思います。
相澤教育長	どうしても長期戦になります。家庭の中にそういうお子さんがいると、落ち込んだ生活になってしまいます。こういった状況を、カウンセラーの人に来ていただいて、面談をしてもらい、こじれる前に何とかしていこうということです。また、子どもが自信をなくしてしまって、登校できなくなったり、心が弱ってしまうことで不登校になってしまうこともあるので、そういったケアも必要になってくると感じています。ただ、奈井江の人数だと常勤配置というところまでは必要性はないと感じながら、しかし、月に1回程度では少ない。せめて、2週間から1週間に1回ぐらいは来ていただけるような体制がとれていれば、子どもたちやその保護者に対してケアができると考えていますので、ぜひ増やしたい。元々道の補助を活用していましたので、回数増の部分は町で出していきたいというところです。
堀委員	今後増えていくってということでしょうか。
相澤教育長	そこが、そもそものところの子どもたち1人1人の生きる力を、どうやって創っていくということに繋がっていくと思っています。さきほど冒頭でお話しましたが、ICTが今かなり進んでいます。数値化されているわけではあ

	<p>りませんが、局の義務教育指導監がいらっしやって、奈井江町はとても進んでいると評価をいただいています。普通の授業だと、板書をする、発表する、といった作業に時間がかかってしまうところ、ところが ICT を使うと、1人1人自分の考えを書き、ロイロノートというソフトを使って、先生に提出をすると、みんなの意見を画面で一気に見ることができる。子どもたち1人1人が授業に参加できるし、自分の意見を言えるというか、言わなきゃいけない環境、タブレットだとやらざるを得ないというところ。自分の意見を考え、持っていないてはいけないというところで、タブレットが入って、子どもたちの意識が変わってくれていると感じています。ちょっと脱線しますが、タブレットが導入されて3年ぐらい経ちましたが、国語の先生は、逆に書くことが大事だから、プリントでやらせてくださいという先生も出てきています。現場の先生たちなりに、タブレット至上主義ではなくて、これはタブレットでやる、これはアナログで、という先生も出てきている。そういう意味で、奈井江の現場も進んでいると感じています。</p>
三本町長	<p>分かりました。本当にずっと意見を聞いていて、難しさを感じています。ここ何年か、奈井江らしくということと求めて意見交換をさせていた</p>
三本町長	<p>だいていますが、今も奈井江らしさを探している作業中ですが、すごく難しいなというふうに思っています。</p>
三本町長	<p>5. その他</p> <p>今回はこの教育行政について、林委員は欠席されていますが、他のお三方とも教育委員としてのキャリアを積まれて、こんなところに力を入れるべきじゃないかというご意見もあると思っています。先ほど、給食費無償化の話がありましたが、そこをまな板の上のせてほしいという事で、担当の方に指示いたしました。皆さんが、奈井江町の子どもたちやお年寄りも含めた大人の社会教育も大変重要なのはわかっていますが、やはりまずは、子どもの議論をしたいと思っています。今、「生涯活躍のまち」ということで、色々なことに挑戦してくれていて、皆さん日々頑張ってくれているけれども、そういうまちづくりをしていく中で、子どもたちの影響だとかも考えたとき、どのようなことをしてあげたい、あんなことをしてあげたい、など色々あるのだと思うのですが、他の担当から上がってきたもので、奈井江の子どもたちに経験として、友好都市フィンランドへの体験旅行をさせてあげたいとか、やっぱりいろんな思いを持っています。先ほど出ていた「ななかま」に対する一定の評価だとかがあって、どういうことに投資をすればいいのかがあって、すごく問われています。今、まちづくりモニターというのがあって、何人かの人たちに好き勝手なことと言って欲しいと、意見を聞く場を設けているのですが、砂川から転入された方が、奈井江は医療費無償化も含めて、本当に子育てに対する支援が強いから来たのに、他の町が給食の無償化をするという中で、しないのは、奈井江の良いところがなくなったというご意見をいただきました。そうすると、さっきちょっと申し上げた通り、外から見たときに、一番最初に奈井江っていうところに関心を持つか持たないかは、門構えが立派かどうかということなのかと思っています。もともとボロボ</p>

	<p>ロだと関心も持たれない。門がボロボロでも、中に入ったら結構立派な庭もあって住みやすい家だよということもあるのかもしれませんが、やはり、最初の印象の門構えもある程度整える必要があるのではないかと、悩んでいます。近隣市町が給食無償化ということを行っていて、奈井江町が無償化をやらないとしたときに、奈井江町への転入を選択しないといったことがあるかもしれません。奈井江町が色々やっていることの評価は、やはり奈井江に住んでもらって、これも良かった、あれも良かったとなるのだとしたら、それも大切なお金だと思っています。そんなこともちょっと意識しながら、皆さんから意見を聞かせていただきたいなと思っています。何でも結構です。給食費の無償化のことも、別の意見があればお聞きしたいと思えます。私なりに整理をさせていただく材料をいただければと思います。三原委員いかがですか。</p>
三原委員	<p>給食費の話ですね。今まで色々議論してきました。</p>
三本町長	<p>給食費と保育料の無償化についてが、今国の子育て政策の中でも大きなウエイトを含めています。ただ今回、頓挫しかねない財源、誰も野党も与党もみんな絶対否定できない課題であることはわかっていますが、財源論になったときに、足の引っ張り合いをしている。残念ながら、自主財源を持た以上、国のお金をどうやりくりするかということにかかっているものですから、優先順位をつけて政策を展開したい。できるだけ子育てに重点を置きたいし、重点を置いた子育ての中でも、どういうものに重点を置くのかって議論を整理しないとだめなのかなって思っています。</p>
三本町長	<p>どちらかという、教育委員会としては、無償化をしない方向の意見が多かったと思います。今回、この会議に来る前に、給食費無償化というテーマで協議をしたいということで、改めて考えてみたら、無償化という門構えはインパクトがあるので、必要なのかなと思います。しかし、もし、無償化をやらないとしたら、やらない代わりに「ななかま」がある、ということで、勝てるかどうかと考えたときに、今の状況では僕は微妙だと思っています。</p>
三原委員	<p>どちらかという、教育委員会としては、無償化をしない方向の意見が多かったと思います。今回、この会議に来る前に、給食費無償化というテーマで協議をしたいということで、改めて考えてみたら、無償化という門構えはインパクトがあるので、必要なのかなと思います。しかし、もし、無償化をやらないとしたら、やらない代わりに「ななかま」がある、ということで、勝てるかどうかと考えたときに、今の状況では僕は微妙だと思っています。</p>
堀委員	<p>いや、私は違うと思います。給食費無償化とは食べることでしょ。教育ということで、食べることじゃないと思います。私が委員の間は、無償化には反対の気持ちです。確かに「ななかま」は、結果がすぐ出てこないかもしれませんが、でも、今まで自宅に帰ったら、携帯やゲームで遊んでばかりいた子たちに、少しでも何か学びに触れさせる、「ななかま」講師との新たなコミュニティもできた、そういうものがすごく大きいと思っています。</p>
三本町長	<p>もちろん「ななかま」をやめるということではありません。逆に、「ななかま」に何かをプラスアルファするのか、「ななかま」と同じようなもので何を出すのかという議論です。「ななかま」は現状として評価しています。評価を広げるためにも、奈井江に入ってきて「ななかま」を通ってもらわないとわからない。まず、奈井江に入ってこなきゃわからない、そのところをどうするのかという議論です。</p>
三原委員	<p>私は、年に1度北海道新聞に公表される全国学力テストの結果は、結構気になります。移住定住を考える人の目には刺さるのではないかと思います。</p>

	<p>「ななかま」をやることで、新聞に奈井江町が出る、結果があつてのことだと思います。</p>
三本町長	<p>奈井江の出生も年 20 人切っていますが、それでも、全国学力テストの結果にこだわっていきますか。結果がでるまでに時間がかかるといいますし、それまでに衰退する可能性もあるように思います。</p> <p>せめてこの地域、中空知の中で、奈井江の特性ということで、奈井江は教育だと言われるだけのものを構築できるのかということです。移住定住を考えている人が、給食費などにつられて住処を定める前に、奈井江らしさをアピールできるのか。さっき、給食費と教育で土俵が違うという話もありましたが、結局、家を建てようとするときに、違う土俵をひっくりかえして選ぶと思います。そここのところの議論をしたいということです。</p>
矢萩委員	<p>この前新十津川町の給食費無償化のチラシ見ました。近隣もそうになっていくのだなと思いました。予算的なことで、何でもできるのであれば一番良いと思うのですが、そうはいかないと思いますので、若い世代が入ってくるとしたときに、給食費も大事だと思うのですが、他の町にない特色を創ることも大切だと思います。それは現状でいけば「ななかま」だと思います。小中</p>
矢萩委員	<p>学校であれば、塾に通わなくても、ある程度成績が残せるとか、行きたい高校に行ける学力が身につくとか。そういうことがあれば、給食費にかわる魅力になると思います。ただそうなる、やっぱり今のままの「ななかま」と学力が上がりづらいと思うので、学年が上がるに合わせて、早め早めに学力重視の塾に方向転換をしていかないと難しいと思います。</p> <p>その給食費の問題ですが、無償化しないとしたときに、別の角度からみて、給食費を払う意味があるという位置づけにするとか。以前 NHK の番組でやっていたのですが、子どもたちにすごく良いお米を提供する。地産地消で、1.5 倍の給食費払ってもいいから、その町を活性化させるために、親も協力して町全体で農業を守るという取組をしている。給食費を無償化するという考えではなく、価値をつけて子どもたちに安全で安心なお米を提供する。うちの町はここが一番だということ、あえて高いお金を出して給食費を払うという町も全国に何ヶ所もありました。そういうところもあることを知ると、私としては、今まで無償化する方向の考えが大きかったのですが、価値をつけるという考え方も色々あつて面白いなと思いました。</p>
三本町長	<p>今実はちょっと資料間に合いませんでしたけれども、別の担当に、1 人親家庭において、10 年前と現在における小学校から中学校までの世帯の平均の収入所得がどれぐらいで、その中に占める給食費や学費のウエイトがどれぐらい占めているかを調べたいと思っています。物価が上がっていると、給食費も含めて、今現在そのウエイトは高くなっているはずですが。その時に、やはりかけられる人はいいのですが、かけられない人の絶対数が増えているとしたら、その人たちにとっては良いとか悪いとじゃなくて、絶対的にそれは必要なことであつて、魅力であるわけですから、その中でやりくりをして家を建たり、移り住むということで、選択へのウエイトは大きいはずですが。理想と現実の話をするのですが、どこまでそれを求めるのかということです。</p>

	本当に悩んでいます。
矢萩委員	そういった調査結果はわかるのでしょうか。
三本町長	<p>そういうデータ自体、今までとったことは恐らくないでしょうし、今と10年前をうまく比較できるのかということもありますので、わかりません。</p> <p>一時期、新1年生の3分の2ぐらいが1人親世帯だったという時期もありました。そうすると、やっぱり給食費の負担は大きいわけです。目に見えない貧困という問題もありますし、給食費対策が結果、遠回りかもしれませんが、結びつくのかもしれないということを考えなければならない。そういう中で、判断しなくてはならないと思っています。ですから、皆さんから、こんなことをやりたいあんなことをやってみたいということをお願いしたり、町民、子どもたちや保護者にとって魅力ある教育行政というものを提示していただいて、それを私が総合的に判断したいということでもあります。</p>
堀委員	そこまで、給食費無料化は魅力ある政策なのでしょうか。
三本町長	そこをみなさんどうですかということなのです。
堀委員	給食費無償化をうたうことで、移住率が上がるということですね。
三本町長	それは上がると思います。要はこの中空知の中で牌の取り合いになるのだから、そういうことですよ。中空知の中で、移住定住を考えるとときに、近隣が無償化している中で、奈井江町がしていないとしたときに、選択肢になるのでしょうか。
堀委員	そうですか。もう近隣で有償なのは奈井江町だけなのですか。
三本町長	そうです。
堀委員	そうなのですね。
碓井副町長	統一地方選挙があつて、町長が替わったタイミングで選挙公約に掲げているパターンがありました。それを望んでいる人も多いということでの公約だったとは思いますが。
堀委員	1年間に9,000千円でしたか。
井上係長	増嵩分が9,000千円で、トータルで14,000千円程度です。
堀委員	大きな額ですよ。
碓井副町長	<p>この秋からずっと役所全体の中で、町の子育て対策をどうするかというアイデアを色々出してもらって、そこを分類しながら、来年度予算に関わるものが予算要求で出てくると思います。そして、これをどうまとめていこうかということなのです。これは事務屋の話として聞いて欲しいのですが、一番国が課題としているのは人口問題、要は少子化出生率を上げるということです。今国の頭脳になっているのは、実は奈井江町と関わりのある内閣府官房の山崎史郎さんっていう人で、先頭になってやっています。色々なことを考えて動いているのですが、今とりあえず出てきているのは、児童手当と大学の学費です。今回はその人口問題少子化で動くのですが、我々自治体も同じように、人口推計を作って、奈井江町の人口や出生率を少しずつでも上げようという計画をつくってやっていて、それは来年度以降も長期的に予算を持たなきゃいけない。そういう予算も含めて、基本的な子育てっていう部</p>

	<p>分を持たなければいけないとしたとき、今令和6年度の予算をどうしようかということなのです。中長期の頭を持ちながら、6年度は動き出しとなります。皆さん言われた「学力」っていう部分も、奈井江町の持ち味としてどう考えるか、保健師の数を増やして保健福祉活動を充実ということもあるだろうし、あとは、今の経済対策も含めてなのですが、生活支援みたいなもので、色々なものやっつけていかなきゃいけない。そういったときに給食費っていうのはどこの分野に入っていくのだろうといった整理をした方が分かりやすいのかもしれませんが。確かに「学力」と「給食費」が、直接結びつくものではないという考えは理解できますし、土俵が違うような気がします。ただ、定住対策としたときに、今町長が言われた通り、全部この近隣の取り合いなのです。恐らく、新十津川は、すぐ隣が滝川と近いものだから、住民を引っ張ろうという施策をしていると思います。そういう整理をする中で、とりあえず、大きな中長期を考えながら町の子どもの教育全般を考えながら、来年手始めにここまではできるのではないかとか、こういう住民の要望があって、やったらいいのではないかとか、そういうまとめ方になるのではないかと思います。まだまだ要望が上がってきているわけではないのですが、生活支援の部分で「子ども食堂」だとか動いていたり、そういう我が町らしいパッケージができればよいかなと思っています。</p>
<p>碓井副町長</p>	
<p>三本町長</p>	<p>奈井江町は文化の町ということで、堀委員や矢萩委員も取り組んでくれていて、今は生涯活躍のまちということで、奈井江町全体で取り組んでいます。高田係長も土日もほとんどないぐらい一生懸命参加してくれています。色々な形で奈井江町をアピールしてくれて、奈井江町って楽しいなっていうことで移住してもらって、それで活気あるまち作りの1つのツールになっている。皆さんが言われていた教育行政の中で、「学力」という形で評価されたまち作りもあるでしょうし、生活環境、とにかく、昭和57～58年から60年近くだったかな、初めて下水が奈井江町で最初に共用化されたのですが、水洗トイレ化を一番初めにした町っていうことで、環境衛生上の問題をPRできた時期がありました。色々なものがあって、そういうことを総合的に考えて、人は住む場所を決めていくと思います。私が、企業立地に関わっていたとき、奈井江町に300haという土地があったとしても、東京の人たちが奈井江町に移住を考えようとしたときに、近場に高等教育を受けるところがないっていうところが最大のネックでした。だから、やっぱり住むのだったら札幌、もしくは札幌周辺という感じでした。そういうことを全部考えると、実は住む場所を決めるというのは、いろんな要素を混合させて判断するので、子どもが小さいときと、大きくなってからは違いますし、子どもの教育だけで、そこに住み着きたいっていうことにはならないと思うので、本当に最初の食いつきのところがすごく大切になってくると思います。教育の中で突出して奈井江らしさを出せる政策として何かないでしょうか。特に子どもたちに力を入れたいですし。</p>
<p>三原委員</p>	<p>これから立派な新校舎が建ったら良いかもしれません。小さな話ですが、私の来年の目標は盆踊りの実現です。子どもたちと保護者に呼び掛けて、イ</p>

	<p>ベントを創って、そしてそれが続けば、子どもたちが大きくなったときに、帰ってくる場所があるだろう。その狙いでおります。</p>
三本町長	<p>矢萩委員は何かありますか。</p>
矢萩委員	<p>私は、外国との交流をもっと盛んにできたらいいなって思っています。前も会議の時にも話しましたが、今フィンランドと交流していますが、交流人数が少ないので、もっと多くの方が交流できれば良いと思います。私が岩見沢にいた時は、20人ぐらいの中高生が行き来していました。それは、長い歴史の中でそういうふうになっていったのですが、ゆくゆくは奈井江町そういう形になるといいなと思っています。グローバルな取組で、近隣にはないようなことであればPRになると思いますし、日常会話ぐらいは、子ども、小学生でも話せるとか、今後の社会の中でも必須だと思うので、そういう意味では魅力になるのではないかと思います。</p>
三本町長	<p>本当に900万円は大きいです。この900万を、逆に他のものに使ったらこんなことができるっていうのが示せばいいのかもしれませんが、それもなかなか難しい。ほかの町で当たり前になっていることが、奈井江町ではやっていないとなると「なんで？」ということにもなりますし、別の取組がでてこれば魅力になるのですが、非常に悩ましいところであります。そんなことで</p>
三本町長	<p>本当に悩んでいることを伝え、このことについてはここでお話を止めます。多くのご意見ありがとうございます。全体を通して何かいろんなことを何か言っていたらありがたいけど何かありませんか。教育に関わらなくてもいいです。</p>
堀委員	<p>ごめんなさい。やはり議論が戻ってしまいますが、私は、やはり給食費は、親の汗や努力によって払うのが基本だと思っています。そこはやはり、親の義務だと思っています。そこは、譲れない私の意見です。</p>
三本町長	<p>とても難しい議論です。今、奈井江町で何ができるか、選択し実践していくのが私の仕事ですので、皆さんの意見を聞きながら、決定させてください。</p>
矢萩委員	<p>私も当初は給食費無償化賛成でした、近隣の町が全部やっていたり、日本全国的にそういう流れだったからです。ただ、どうしてもそれに代わるもので予算がないということであれば、給食費以外の施策もあるのではないかともあります。でももし、給食費を無償化にするっていう方向性で行くっていうのであれば、そちらに予算を費やすこととなりますので、その他の事業を今後どう継続していったらいいのかっていうことを検討する必要があると思います。予算のキャパは決まっているので、限られた財源の中でいかにパフォーマンスを上げるのか、良いプランを作っていくのかっていうことが大切だと思います。なので、今後こんな指針があるってことがあれば、その方向で知恵を絞りたいと思いますので、そういった指針、方針はあるのですか。</p>
三本町長	<p>その指針は、町民の皆さんといっしょに創っていく必要があります。私の思いだけで創っては地方自治にはならないですし、私は独裁者にはなれません。多くの人たちの意見を集約して指針を創っていくこととなりますので、まさにみなさんから、こういったことを指針にしたらいいのではないかと、という意見を聞かせて欲しいということです。</p>

矢萩委員	わかりました。
三本町長	その他ございますか。
三原委員	指針とは少しずれてしまいますが協力隊人たちの活動がすごいなということ去年より思っています。その仕事ぶりを見ている、学ばされます。町民も看過されて「俺もやる」という声が出てこればいいなと思っています。
三本町長	やっとな協力隊が協力隊らしく動き出してくれるようになりました。過去に何人かいらっしゃいましたが、今のような形で動けていなかった。町民も何となく認知し始めて、そして加わって、一緒にやってみようって町全体が活発になればいいと思います。
三原委員	はい。その通りだと思います。
三本町長	形として見えてきたので、他分野例えば農業の分野などでも活用できたらいいなと思ったりしています。
堀委員	まずいっしょにやってみることなのですね。入ってこないとわからないのです。みんな。
三本町長	本当に町民参加のエネルギーになってきていると思うので、とても嬉しく思っています。それは本当に大切にしたいし、役場全体にも広げたい。「なな
三本町長	かま」も、協力隊と教育委員会のみなどと一緒になって作り上げてきたと思います。学校もそうです。素晴らしいことだと思います。仕組みを創ったりするのは、多くの関わってくれる人が必要だと思います。人を繋げていくことが課題だと思います。まさに、今頑張ってくれている協力隊、みんながそれぞれのところで発信しながら、お互い影響し合っている。エネルギーを出して来ていることを評価したいですし、間違いなく職員もすごく刺激されていると思います。
堀委員	そう思います。若い活力で動いていてよいと思います。今役場職員も若い人が少なくなっているので、刺激し合ってよい取り組みができればいいですし、その基盤ができればいいと思います。年齢層が高い人だけでは生まれたい発想を大切にしていけることが大事だと思います。
三本町長	その通りだと思います。
三本町長	その他なにかございますか。他になければ、時間も2時間近くなりましたので、この辺で会を閉めたいと思います。 僕にとって本当に有意義な時間でした。いただいた意見を基に、やるか、やらないかは、最終的に私の責任で判断します。今後も教育行政ほか、それぞれの分野において、政策に自信を持てるように、皆さんで議論していただければ嬉しいなと思います。 長い時間、活発なご意見いただき、本当にありがとうございました。
委員	ありがとうございます。
	6. 閉会 10:56